

京の毎月きまりもんカレンダー

15日

- ・小豆のごはん*1
- ・なます
- ・にしん昆布巻*2
- ・えび芋とぼうだらの煮物
- ・お頭つき魚の焼物
- ・夫婦炊き

1日

(朔日)

- *1：うるち米に小豆を入れて炊きます。家中がまめで暮らせるようにの意味です。
- *2：「渋う、こぶ、こぶといくように」（という語呂合わせで）万事しまつして、がめつくという意味です。

8日

- *3：末広がりへの日に芽がでるようにと願う気持ちと、病人がでないまじないです。

18日

28日

- ・あらめ(新芽)とお揚げの炊いたん*3

30日

- (際日・月末)
- ・おから*4

- *4：来月も同様に相変わりませんように、「ご縁が切れませんように」と「きらず」（おから）を食べます。またおからは炒るので、その語呂合わせから「入る」「お金が入る」の願いからという意味もあります。

京都の商家を中心に、月のうちの「何の日に何を食べる」という「おきまり料理」が定着していました。これは、身体に必要な栄養素を安価な食品で定期的に取り取るだけでなく、今日は何日かを再確認し、気持ちを引き締め、暮らしにメリハリをつける役割もありました。京女の合理性をふまえた生活の知恵といえます。